帝塚山大学短期大学部紀要　第40号　53～58（2003）

女子短大学生の職業選択と自己同一性の獲得*

――学生の職業的なアイデンティティ・ステータスと母のライフコース――

大久保　純一郎

職業選択（Vocational decision-making）は，青年期の自己同一性獲得過程において，最も重要な課題のひとつであり，数多くの研究がなされている。

職業選択は，自己同一性獲得の最も重要な要因である。しかしながら，近年の日本人青年（特に大学生）は，自己同一性の確立が十分でないままに，卒業というかたちで職業選択をせざるをえない場合が多い。そのためか，卒業後も一定の職業につかない「フリーター」の数が増加している。さらに，いったん就職しても早期に退職する例や，「出社拒否」に陥る例なども増加し，大きな社会問題ともなっている。

女子短期大学生の場合，就職活動は1年次の終わりころから，開始されているのが現実である。4年制大学生と比べるときわめて早期であり，職業選択や職業の維持はより困難となっているのではないかと予測される。そこで，著者は現代の女子短期大学生の職業選択の過程について，自己同一性の獲得や精神的な病理の観点から継続的な研究を開始した。

下山（1992）は，日本の大学生のモラトリアムの状況を分析し，受験などによる管理体制が強固な日本社会の特殊性を考慮し，次のような考察をした。1）日本の大学生の場合，「大学入学後に職業決定を積極的に延期し，その延期した期間に思春期の発達課題である自由な役割実験を行」い，自己同一性の基礎・確立に結びつくと考えられる。2）逆に，職業決定課題を回避することで，心理的な混乱を防いでいる場合は，さまざまな自己同一性の障害や未成熟が予想される。

女性の場合は，進路・職業選択に際して，男性とはまったく次元の異なる意志決定を迫られていると，岡本（1995）は述べている。すなわち，女性は，単なる職業・会社の選択のみならず，「職業を持つのかもたないのか，職業をもつならどのような働き方をするのか，家庭建設と職業をどのように折り合わせていくのか，といった多角的な選択を迫られる」と述べ，日本女性の代表的なライフコースを紹介し，結婚・出産などさまざまなライフイベントに遭遇した場合，女性は自分以外の要因によってその生活の変更を余儀なくされると述べている。したがって，ライフコースとの関わりは，女性の職業選択における大きな要因といえる。

他方，青年期における女性の心理学的な問題において，青年の母への感情や，母の青年に対する態度などの母子関係が重要な役割を果たしているといえる（大久保，2002）。

---

*本研究の一部は，日本心理学会第65回大会（2001年10月，筑波大学）において発表されたものである。

本論文では，女子短期大学生のモラトリアムの状況やアイデンティティの状態を，下山の方法にしたがって測定・分析し，さらにそれぞれの学生の理想とするライフコースとその母が実際に歩んだライフコースを調べ，モラトリアムやアイデンティティの状況と比較した。

方　　法

被験者

短期大学部に所属し，生涯発達心理学に関する講義を受講した1年生の女子学生169名を対象とした。

質問紙

モラトリアム尺度：大学生のモラトリアムの状況を分析するもので，24項目からなり「回避」,「拡散」,「延期」,「模索」の4下位尺度にわけられる（下山，1992)。これらは，モラトリアムの状態を示すが，同一性地位（Identity Status: Marcia, 1966）とも関係している。今回の分析では，下山（1986）の職業決定尺度も同時に実施した。これらは3件法で実施した。

アイデンティティ尺度：自己同一性の達成度を示す尺度で20項目からなる（下山，1992)。自己同一性獲得の基礎に関わる「基礎」尺度と，社会的な状況における自己同一性確立に関わる「確立」尺度からなる。これらは4件法で実施した。

ライフコース：経済企画庁国民生活局（1987）によるライフコースの類型を用い,「母のライフコース」，自分の「希望するのライフコース」について調べた。集計は5種にまとめて行った（表1)。

手続き

生涯発達心理学に関する講義において，講義内容の理解を深めるための課題として質問紙を実施した。2回に分けて実施したため，被験者数は異なった。第1回目にモラトリアム尺度，アイデンティティ尺度を行った（153名参加)。2週間後にライフ・コースの質問紙を実施し

表1　女性の代表的なライフコース
（経済企画庁国民生活局，1987の記述を元に表を書きなおす）

ライフコース		本研究の類型
タイプ1	結婚はしないで，仕事を持ち続ける。	その他
タイプ2	結婚し，出産しないで，仕事を持ち続ける。	その他
タイプ3	結婚し，出産する。しかも，仕事は持ち続ける。	両立型
タイプ4	結婚し，出産する。出産の時点で仕事をやめる。	退社型
タイプ5	結婚し，出産する。結婚の時点で仕事をやめる。	退社型
タイプ6	結婚し，出産する。出産で退社するが，再就職する。	復帰型
タイプ7	結婚し，出産する。結婚で退社するが，再就職する。	復帰型
タイプ8	結婚し，出産する。仕事につかない。	専業型

た（146名参加）。2つともに参加した者は128名となった。

結　　果

モラトリアム尺度・アイデンティティ尺度

2つの尺度の結果を表2に示す。各下位尺度の平均および標準偏差，下位尺度間の相関係数を示す（n＝153で，5%水準で有意な相関係数は，.159である）。「回避」は，職業的同一性の確立を意味する「決定」や，アイデンティティ尺度の「確立」とゆるやかな負の相関を示しているが，「基礎」とは有意味な相関がない。すなわち，「回避」は，自己同一性の獲得は不十分なものの，その基礎的能力はある状態といる。「拡散」は3つの同一性測度と負の相関を示している。この結果は下山が，大学生に行った研究と類似している。「拡散」はアイデンティティの「基礎」も不十分な状態で，精神的な未熟や混乱も予想される。「延期」・「模索」は自己同一性の「基礎」との相関のみ有意味である。自己同一性の確立へ向けての準備状態といえる。「決定」はアイデンティティの「確立」とのみ相関がみられた。「基礎」との相関が見られない。これは，職業的自己同一性の確立したもののなかには，Marcia（1966）のアイデンティティ達成とともに早期完了の者も多く含まれているためといえるかもしれない。

モラトリアム尺度の各下位尺度の標準化得点を比較し，もっとも高い得点の尺度を個人のモラトリアム型とした（この分析は，各種データのそろった128名についてのみ行った）。Fig. 1および，Fig. 2にモラトリアム型別の，「自己同一性確立」尺度と「自己同一性の基礎」尺度の得点の平均値を示した。確立尺度得点について，モラトリアム型を群間要因とした分散分析を行ったところ，群の効果は有意であった（$F=3.58$, $df=3,126$, $p<0.05$）。Duncanの法により，5%水準のサブグループに分けたところ。回避型と拡散型が低得点のグループを形成し，模索型が高得点のグループを形成し，延期型が中間型となった。基礎尺度得点について，モラトリアム型を群間要因とした分散分析を行ったところ，群の効果は有意であった（$F=5.17$, $df=3,126$, $p<0.01$）。Duncanの法により，5%水準のサブグループに分けたところ。拡散型のみで低得点のグループを形成し，他の3類型には有意な差が見いだされず，一つのグループを形成した。

表2　モラトリアム尺度・アイデンティティ尺度の下位尺度間の相関係数

	回避	拡散	延期	模索	決定	確立	基礎
回　避	1						
拡　散	0.287	1					
延　期	0.612	−0.02	1				
模　索	−0.03	0.208	−0.12	1			
決　定	−0.33	−0.29	−0.15	−0.12	1		
確　立	−0.23	−0.21	−0.05	0.073	0.492	1	
基　礎	0.016	−0.4	0.234	0.158	−0	0.149	1

n＝153

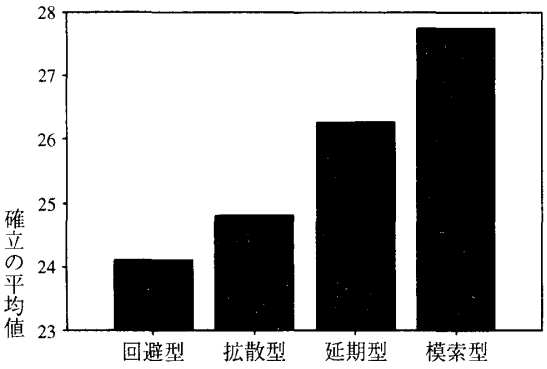

Fig. 1 モラトリアム型別の確立得点

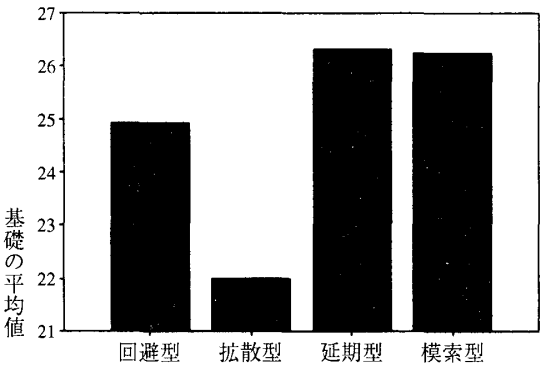

Fig. 2 モラトリアム型別の基礎得点

表 3 母のたどったライフコースと本人の希望するライフコース（ライフコースの類型は本文を参照されたい）

		本人の希望するライフコース					総計
		専業型	退社型	復帰型	両立型	その他	
母のライフコース	専業型	1	1	3	0	0	5
	退社型	6	17	13	5	1	42
	復帰型	5	25	32	8	0	70
	両立型	5	3	12	6	1	27
	その他	0	0	2	0	0	2
総　計		17	46	62	19	2	146

<回避型>31 名：アイデンティティの確立は，低いが基礎は平均的な数字であった。自己同一性の獲得は不十分なものの，そのための基礎的能力のある状態といえよう。

<拡散型>30 名：アイデンティティの基礎も確立も低く，自己同一性の獲得は不十分で，精神的未熟や混乱も予想される。

<延期型>33 名：モラトリアムの「決定」や自己同一性の「基礎」は，回避・拡散型より高く模索型と同じほどである。「確立」は，中間的で模索型より低い傾向にあった。

<模索型>34 名：アイデンティティの「基礎・確立」，モラトリアムの「決定」も高い。自己同一性確立への準備状態と言える。

ライフ・コースの質問紙

ライフコースの質問紙の結果を表 3 に示す。母のライフコースと本人が希望するライフコースの間に明確な関係は見いだせなかった（$kai^2=6.33$, $df=4$：この分析は，「その他」，「専業」以外の 3 類型で行った）。

モラトリアム・アイデンティティ尺度とライフコース

ライフコースとモラトリアム・アイデンティティ尺度の関係について検討した。母のライフコースに関する分析は，「その他」，「専業型」をのぞいた 3 類型で行った。本人が希望するライフコースについての分析は「その他」をのぞいた 4 類型で行った。

表4 本人の希望するライフコース別のモラトリアム・アイデンティティ尺度得点と分散分析の結果

		本人の希望するライフフコース				F
		専業型	退社型	復帰型	両立型	
モラトリアム尺度	回避	13.0	11.1	11.3	10.0	4.59 **
	拡散	12.9	12.1	12.4	11.9	3.53 **
	延期	12.5	10.7	10.6	9.9	0.36
	模索	12.8	12.7	13.3	13.7	1.04
	決定	5.9	6.1	6.0	6.2	0.05
アイデンティティ尺度	確立	23.9	26.5	25.6	27.1	1.33
	基礎	24.6	24.8	25.5	23.6	0.59

+, $p<.10$: *, $p<.05$: **, $p<.01$

表5 母のライフコース別のモラトリアム・アイデンティティ尺度得点と分散分析の結果

		母のライフコース			F
		退社型	復帰型	両立型	
モラトリアム尺度	回避	12.1	10.8	11.7	3.48 *
	拡散	13.1	12.2	12.5	0.95
	延期	11.0	10.5	11.2	0.84
	模索	13.2	13.2	13.3	0.03
	決定	5.9	6.2	5.7	0.66
アイデンティティ尺度	確立	25.9	26.4	23.9	2.26 +
	基礎	23.9	25.3	25.2	0.91

+, $p<.10$: *, $p<.05$: **, $p<.01$

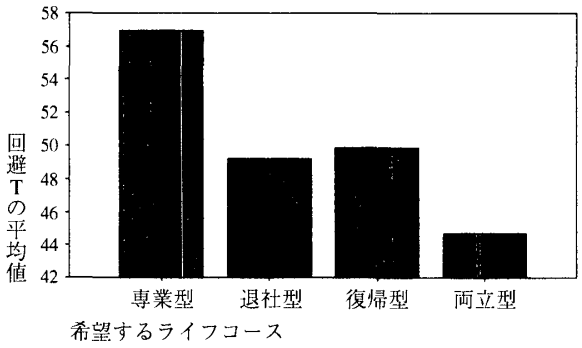

Fig. 3 本人が希望するライフコース別の回避尺度得点

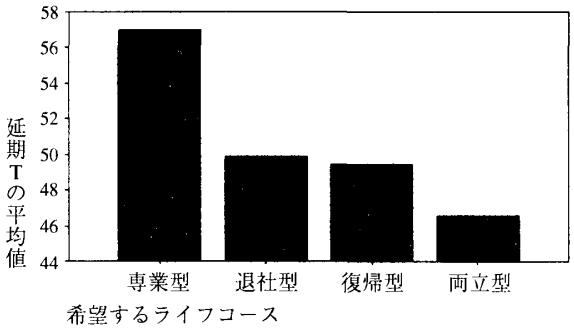

Fig. 4 本人が希望するライフコース別の延期尺度得点

モラトリアム・アイデンティティ尺度の得点について，母のライフコース，本人の希望するライフコースの型を要因とした1元配置の分散分析を行った（表4と表5）。

<本人の希望するライフコース>では，専業型を希望する者は，「回避」（Fig. 3）と「拡散」（Fig. 4）の尺度得点が他の者より有意に高かった。専業型のライフコースを希望する者は，

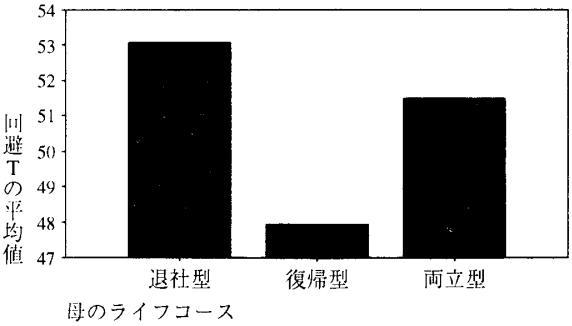

Fig. 5 母のライフコース別の回避尺度得点

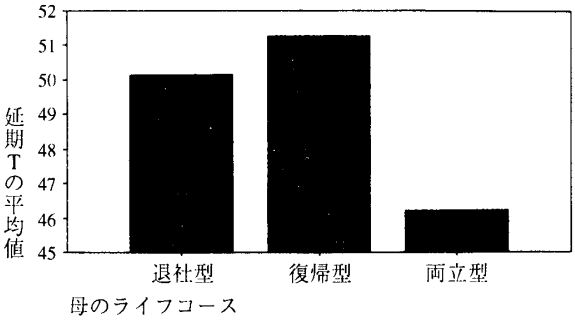

Fig. 6 母のライフコース別の確立尺度得点

職業的アイデンティティが混乱していることが多いと解釈できる。

<母のライフコース>：「回避」得点は，復帰型のみが有意に低かった（Fig. 5)。「確立」の得点では，両立型が有意に低い傾向が見られた（Fig. 6)。母のライフコースによって，職業的アイデンティティの確立に大きな差はみられなかった。ただし，母が復帰型である場合，本人の得点は「回避」が低く，「確立」が高く，職業的アイデンティティの状況はもっとも安定していると考えられる。

考　　察

短期大学生の職業的モラトリアムと，アイデンティティについて分析を行った。短大生のモラトリアム状況について，分類し，それぞれの特徴を検討した。被験者の半数ほどは，自己同一性の獲得に向けて模索中か，潜在的な力はありながら積極的なモラトリアムにあるといえる。しかし，残りの半数は未熟な状態であり，さらにその半数は自己同一性の混乱状態を予測させるものであった。これらの学生に対するケアが急務であると考えられる。この研究は，被験者が1回生の時のものであり，その後のフォローアップ研究が望まれる。さらに，ここでは，職業選択を中心に分析を行ったが，自己同一性の他の側面についても研究することが望まれる。

引用文献

経済企画庁国民生活局　1987　新しい女性の行き方を求めて．大蔵省印刷局．

Marcia, J. E. 1966 Development and validation of ego-identity status. *Journal of Personality and Social Psychology,* **3**, 551–558.

岡本祐子　1995　青年期における意志決定　落合良行・楠見　孝（編）　講座生涯発達心理学　第4巻　自己への問い直し－青年期．　金子書房．

大久保純一郎　2002　青年期女性のこころの健康と人格発達（1)－チャム形成，母への愛着，そして原因帰属の影響－　帝塚山大学短期大学部紀要，**39**, 33–41.

下山晴彦　1986　大学生の職業未決定の研究　教育心理学研究，**34**, 20–30.

下山晴彦　1992　モラトリアムの下位分類の研究－アイデンティティの発達との関連で－教育心理学研究，**40**, 121–129.